



令和3年度 SSTA福島支部 合同総会・春季研修会 実施報告

- 【実施日時・場所】令和3年5月8日（土）オンライン開催
- 【参加人数】22名（小学校20名，大学1名，教科調査官1名）
- 【研修のねらい】



鳴川先生にも来ていただきました！

- SSTA 福島支部，日本初等理科教育研究会福島支部，若い教師と共に学び合う自主セミナーの3団体による合同総会を通して，令和3年度の活動の見通しを共有する。
- 令和3年度のSSTA 福島支部の研修テーマを協議したり，それに沿った授業実践案を考えたりすることを通して，令和3年度のSSTA 福島支部会員一人一人が活動に見通しをもつ。

【研修内容】

① 3団体合同総会・「新生SSTA」の紹介

総会では，各団体から新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた事業計画や予算案が提案され，慎重審議を行いました。今年度は3団体の存在意義をより一層明確にし，スクラムを組んで福島県をはじめ日本の理科教育に貢献していくことを参加者全員で共通理解を図ることができました。

また，SSTA 副理事長・企画研修委員長の山本巖校長先生，企画研修委員の加藤怜先生から「新生SSTA」の概要について説明があり，これからの研修の在り方について共通理解しました。



② 令和3年度のSSTA 福島支部の研修テーマの協議

福島支部研修リーダーの嶋原卓先生から，令和3年度の研修テーマについて提案がありました。今年度のテーマは「自ら自然に働きかけ，自ら価値を創り変えていく子ども」の育成です。「自ら自然に働きかける子どもってどんな子どもかな？」「価値を創り変えるって，どんな子どもの姿かな」と，**子どもの姿を基にしたイメージの共有**により，今後の授業実践のイメージをふくらませていました。

これから会員一人一人の授業実践における子どもの姿を通して，研修テーマを具現化していく予定です。そしてこのテーマが，**令和4年度に福島で開催される「SSTA エリア研」**につながることでしよう！（提案資料については，福島支部HPをチェック！）



③ これからの授業実践の構想

これから授業を行っていくにあたり，それぞれの授業の構想や悩みについてざっくばらんに話し合いました。「子どもたちがモンシロチョウの興味をもつことができるようにするためにはどうしたらいいか」「人体のように，実験をして確かめづらい内容を子どもが自分事として問題解決できるようにするにはどうしたらいいか」など，若手の先生中心に日頃の悩みを参加者全員で共有し，それぞれのアイデアを共有していきました。若手の先生の悩みを，ベテランたちが親身になって聴き，アイデアを出し，そして押し付けない姿勢がいつも素敵だと感じます。そうやって，福島支部の若手は育っているのだと改めて実感しました。

みんなで福島の科学教育を盛り上げていきましょう！！

